

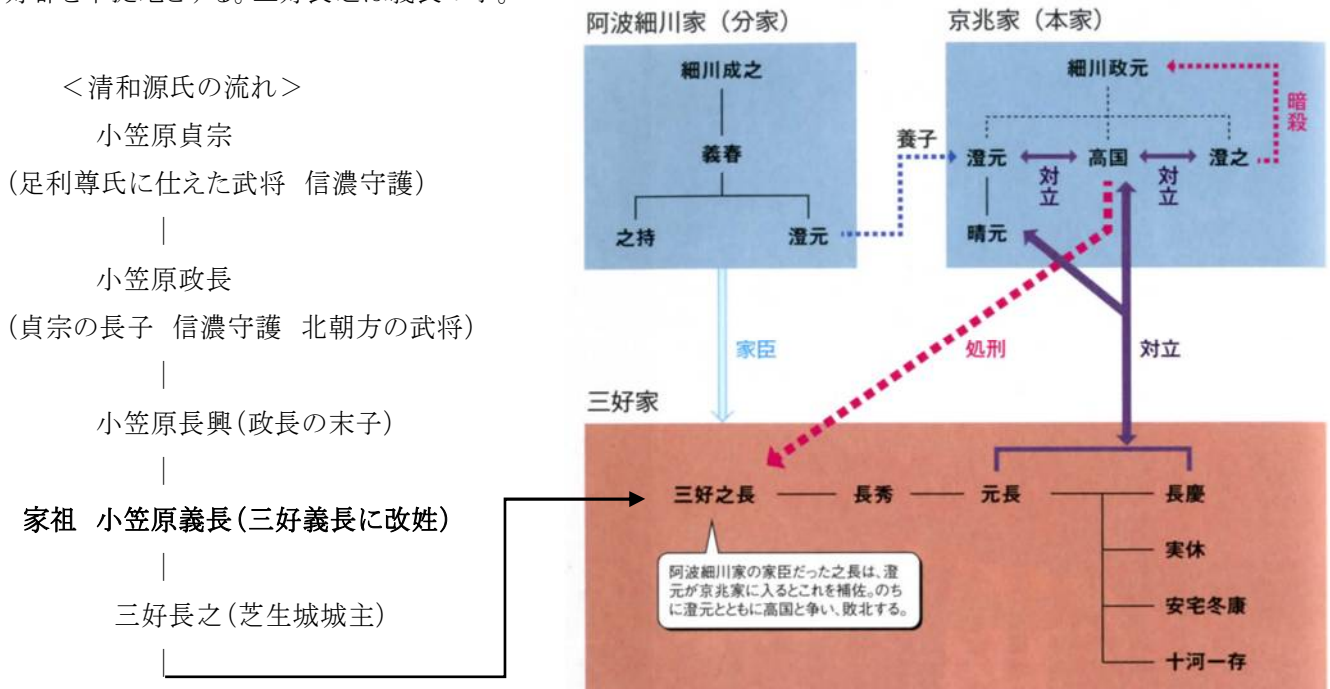
三好一族の出自と主な居城

メモ) 鉄本 2022.09.28

三好一族は切り口がいくつもありますが、今回は、出自と城跡に絞ってまとめてみました。

1. 三好一族の出自と系譜

清和源氏の流れを汲む小笠原義長(後に改姓し三好義長)が家祖。小笠原義長は南北朝時代の武将で阿波三好郡を本拠地とする。三好長之は義長の子。



出典: 「地域別×武将だからおもしろい戦国史」

小和田哲男監修 朝日新聞出版

<各人物の略歴>

【三好之長】

阿波細川家分家の細川成之に仕える。

永正元年(1504年): 堺海船浜に邸宅建設開始。完成は永正18年(1521年)

永正17年(1520年): 細川高国(細川本家・京兆家)と細川澄元(阿波細川家・分家)の間で、細川政元の後継者争いが起こり、之長は澄元側に大敗し2人の子と共に斬首された。(等持院の戦い)

【三好元長】

之長の嫡子らが戦死していたため、直系の孫の元長が三好氏の統帥となった。

細川高国の独裁政権下、細川澄元の遺児細川六郎(後の晴元)と共に、四国に逼塞していた。

丹波国における高国への造反勢力の動きを見て、足利義維を擁して細川晴元と共に挙兵、畿内に進出。

大永7年(1527年): 高国軍を撃破。細川高国は足利義晴を擁したまま近江坂本に落ちる。

【足利義維+細川晴元+三好元長】 対 【足利義晴+細川高国+武田元光】の戦い(桂川の戦い)

* 三好元長は顕本寺(法華宗)側で、高国側には摂津衆・一向宗が付く宗派対立でもあった。

同年に堺幕府(1527年~1532年)を樹立。

天文元年(1532年): 堺幕府の内紛により、細川晴元側の摂津衆・一向宗軍勢に攻撃され顕本寺にて自刃。

【三好長慶】

大永22年(1522年):**芝生城**(三好市)で誕生。

【千利休も同年誕生】

天文2年(1533年):瓦林一派と一向衆が占拠する**越水城**(西宮市)を攻略し居城とする。

天文8年(1539年):長慶が越水城(西宮市)に入城。

天文22年(1553年):**芥川山城**(高槻市)の城主芥川孫十郎に謀反の疑いがあり、長慶が包囲し降伏させ入城。摂津における拠点とする。

弘治2年(1556年):南宗寺の手斧初め、翌年完成し、父元長の供養法要を行う。

永禄2年(1559年):長慶が**飯森山城**を占拠した畠山高政の居城高屋城を攻囲。高政は堺に逃亡。

永禄3年(1560年):足利義輝から相伴衆(室町幕府の職名 管領に次ぐ地位)に任じられる。

飯盛山城(大東市・四条畷市)に入城。

【この年織田信長が桶狭間で今川義元を破る】

ガスパル・ヴィエラにキリスト教の布教許可(免許状)を与える。

永禄4年(1561年):飯森山城で**飯盛千句**(畿内の名所を詠み込む)

永禄7年(1567年):飯盛城で病死。

【この翌年織田信長が足利義昭を奉じて上洛】

【三好実休】

三好元長の次男。長兄の長慶と5歳違い。実休は法名。武野紹鷗に茶道を学び、別邸を寄進し妙国寺を創建した。千利休をはじめ多くの茶人と親しく交流。阿波の**勝瑞城**を本拠地とした。

永禄5年(1562年):畠山高政・根来衆連合と戦う久米田の戦いで戦死。享年36歳。

【安宅冬康】

三好元長の三男。長兄の長慶と6歳違い。安宅氏に養子に入り淡路水軍を統帥。和歌に優れる。

兄・三好長慶によって殺害された。殺害理由は、松永久秀の讒訴、長慶の被害妄想など諸説ある。

【十河一存】

三好元長の四男。長兄の長慶と10歳違い。讃岐十河城主十河景滋(存春)の養子となる。

讃岐衆を統括。和泉国で病死。享年30歳。松永久秀の暗殺説もある。

長慶の長子義興が黄痘で早くに早世した為、一存の実子義継が長慶の養子となり三好当主となる。

2. 三好氏の主な居城

(1) 芝生城(しばうじょう)

徳島県三好市三野町芝生

(2) 勝瑞城(しょうずいじょう)

徳島県板野郡藍住町
見性寺の境内地

(3) 越水城

西宮市越水町・桜谷町

(4) 芥川山城

高槻市三好山

(5) 飯盛山城

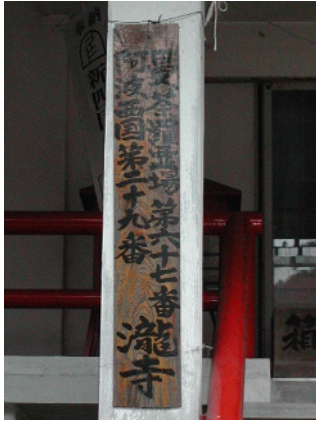
大東市・四条畷市



出典:「地域別×武将だからおもしろい戦国史」 小和田哲男監修 朝日新聞出版

(1) 芝生城(しばうじょう) 徳島県三好市三野町芝生

歴代三好氏の本拠地。寛正年間(1460年-1466年)小笠原家の小笠原(三好)義長(三好之長の祖父)が大西城を廃して新たに芝生城を築く。三好長慶の生誕地とする説がある。吉野川北岸の河岸段丘先端にあり、撫養(むや)街道(鳴門～池田)や芝生津の渡しなどに近い交通の要所に位置する。付近に小笠原長経の開基による瀧寺があり、歴代の小笠原氏・三好氏が帰依している。三好長慶の分骨墓がある。



(2) 勝瑞城と勝瑞館 徳島県板野郡藍住町

承久の乱(1221年)の後、阿波守護になった小笠原長清が守護所を設けたという説がある。館は守護の居館、政庁としての性格を持つもので、細川氏、三好氏が約240年間根拠地とした。勝瑞館は中世の城郭ながら、かなりの規模の城下町を形成していたと思われ、東西約2km南北1.5kmに達していた。勝瑞城は天正8年(1580年)に建てられ、最後の城主十河存保(三好実休の次男)は天正10年(1582年)に土佐の長宗我部勢に破れ廃城となった。非常に短命の城であった。石塁や遺構は徳島城築造のために長宗我部勢によって運び出されたという。



▲東側から見た城跡と見性寺本堂

(3) 越水城 西宮市越水町・桜谷町

観応2年(1351年)足利尊氏と弟直義が戦った小清水の陣所跡。細川高国家臣の瓦林正頼が命を受けて永正13年(1516年)ここに越水城を築城。永正16年(1519年)細川澄元と阿波守護代の三好之長が挙兵し越水城を落す(両細川の乱)。永正17年(1520年)5月、三好之長が細川高国に討たれると越水城も瓦林氏に戻る(等持院の戦い)。大永7年(1527年)澄元の子・細川晴元が三好元長と共に上洛し、城は三好氏のものになる(桂川の戦い)。三好氏にとって、越水城は本国阿波と畿内を結ぶ重要な拠点であり、天文8年(1539年)には三好長慶が居城としている。



写真は、兵庫県公式観光サイトより
西宮市立大社小学校傍にある石柱

(4) 芥川山城 高槻市三好山 標高182mの山城

名勝の摂津峡の東に位置し、北・西・南を芥川が廻る山城。永正12年(1515年)から翌年にかけて、細川高国が細川澄元の来襲に備え、能勢頼則に命じ築城させた。細川晴元、薬師寺元房、芥川孫十郎に続き、天文22年(1553年)8月に三好長慶が城主となった。当時は「芥川」や「城山」と呼ばれ、この城で長慶が畿内各地の裁許を行った。織田信長の時代には和田惟政に預けられるが、惟政は高槻城に移り廃城となった。大手の谷筋や一部の出丸に石垣が見られる。



(5) 飯盛山城 大東市・四条畷市 標高314mの山城

生駒山地に位置する大阪府下最大級の山城。南北朝時代に南朝方が一時的に立て籠もった場所。天文年間(1530年頃)より、畠山義堯家臣の木沢長政が命により飯盛山に城郭を構える。天文12年(1542年)太平寺の戦いで木沢長政が討死し、その後、畠山高政の重臣・安見宗房が城主になる。永禄3年(1560年)三好長慶が入城。

城の規模は南北約650m、東西約400mと大規模な城跡である、全域で石垣が確認され、東面の曲輪群、特に本丸の東側と御体塚丸の東側の曲輪群はすべて石垣で築かれていた。石垣は安土城に先行する石垣の城として評価されている。遺構は、曲輪、土塁、竪堀、堀切、土橋、虎口など。現在は、本曲輪に楠木正行の銅像、馬場曲輪に楠公寺、千畳敷曲輪にFM大阪の送信所が立ち、大阪府を一望できる。



■岩盤をくり抜いた堀切



■帯曲輪に残る城内最大級の高石垣

【その他の居城】

・若江城址: 東大阪市 三好氏本家最後の居城 城主は三好義継(十河一存の子、長慶の養子)ほか

【参考文献】 ・「飯盛山城址調査報告書」 四条畷教育委員会 2013

- ・「河内飯盛城址 2018 飯盛と堺」 大東市教育委員会/四条畷市教育委員会
- ・「大阪春秋 新年号」 新風書房 2017
- ・「地域別×武将だからおもしろい戦国史」 小和田哲男監修 朝日新聞出版 2021
- ・「三好長慶」～(前略) 織田信長の先駆者～ 今谷 明/天野忠幸 監修 宮帯出版社 2013